

学校法人 高田学苑

高田短期大学
中長期計画

< 令和4年度 ~ 令和8年度 >



【 高田短期大学 中長期計画 目次 】

○ 短期大学全体	1.全学的中長期目標	• • • 2～3
○ 子ども学科	1.教育 / 2.研究 / 3.社会連携・社会貢献 / 4.その他	• • • 4～5
○ キャリア育成学科・オフィスワークコース	1.教育 / 2.研究 / 3.社会連携・社会貢献	• • • 6～7
○ キャリア育成学科・介護福祉コース	1.教育 / 2.研究	• • • 8
○ 地域連携センター	1.仏教教育研究センター / 2.育児文化研究センター 3.キャリア研究センター / 4.介護福祉研究センター	• • • 9～13
○ 短期大学事務局	1.総務課 / 2.教務課 / 3.学生課 / 4.入試広報課 / 5.図書館	• • • 14～19



短期大学全体

1 全学的中長期目標

項目	中長期目標		中長期プラン															
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ														
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度										
1	建学の精神の具現化・実践とその涵養	建学の精神の思想的背景である親鸞聖人や釈尊の生涯とその教えに触れることは、学生が人生を生き抜く上での知恵や力となる。またその経験を通じ、本学建学の精神における、さらなる理解の向上や浸透を図る。	①宗教情操教育の実践、環境整備、仏教行事等を通じ、効果を高める。 ②関連授業の充実と仏教行事の学生参加向上。 ③講師の研鑽及び学外PRの向上。 ④実践成果の検証と改善。							企画・立案・実践								
																実践成果の検証・改善		
2	学生募集と大学運営	募集定数の確保・充実、大学運営・教育活動の維持継続基盤であると共に、大学の魅力の指標である。18歳人口の減少や受験生の短大離れなど、募集環境は依然として厳しいものがあり、ICTの発展など、多様かつ素早い社会変化に即した広報戦略を具体化し、本学の魅力を積極的に打ち出す姿勢が、これまで以上に求められている。	①入試広報活動全般の見直し・改善を通じた本学認知度の向上。 ②教職員と在学生とのコラボレーションを基点とした、在学生主体の募集活動展開。 ③高大教育交流推進。 ④研究活動活性化による教員の資質・能力向上。 ⑤「学力の三要素」による学生の資質・能力向上。 ⑥実践成果の検証と改善。							企画・立案・実践								
																	実践成果の検証・改善	
3	時代・社会変化に即応した教育システムの改革・改善	「教学マネジメント指針」（令和2年1月22日中央教育審議会大学分科会）を参考にした教学マネジメントの推進は、現在、高等教育機関が取り組むべき重要な課題である。その中で、教育の理念・目的・目標等や「3つのポリシー（AP・CP・DP）」の不断の見直し、それらに基づく教育の実施、学修成果の具体的把握・評価方法、効果的な情報提供方法の検討・改善等にも継続的に取り組む。	①3つのポリシーの見直し、それらに基づく教育実践。 ②カリキュラム、シラバス等改善、それらに基づく授業展開。 ③「アセスメント・ポリシー」再検討。 ④学修成果可視化、学生への情報提供推進。 ⑤ICT教育推進。 ⑥IR推進。 ⑦実践成果の検証と改善。														企画・立案・実践	
																		実践成果の検証・改善

1 全学的中長期目標

項目	中長期目標		中長期プラン						
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ					
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
4	エンrollment・マネジメントの促進（総合的な学生支援体制の構築）と教職員の意識改革	家庭背景、心身・発達特性、国籍、さらに変化の激しい社会情勢といった背景から、本学学生の気質や意識、ニーズも多様化している。「学生支援」の充実に努めるため、教職員が自身の資質向上に励みつつ、協力し合い、これまで以上に細やかな対応を心がけていく。	<ul style="list-style-type: none"> ①学修環境の不断の改善。 ②学修支援充実。 ③生活支援充実。 ④キャリア支援充実。 ⑤教職員の資質向上（FD・SD）。 ⑥部署間情報共有・連携等（教職協働）推進。 ⑦学生間や学生と教職員との適切な人間関係の構築。 ⑧実践成果の検証と改善。 						企画・立案・実践
									実践成果の検証・改善
5	ニーズに対応した、地域連携の充実	地域に根差した公的高等教育機関として、これまでの伝統と実績に根差しながら、よりその地位向上に努めることは本学の責務である。本学地域連携施設（仏教教育研究センター・育児文化研究センター・キャリア研究センター・介護福祉研究センター）における連携事業、公開講座、地域包括協定に基づく事業の継続や拡充等に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ①地域連携施設の事業継続・拡充。 ②公開講座の充実。 ③地域包括協定に基づく事業展開。 ④その他ニーズに対応した地域連携への取り組み。 ⑤実践成果の検証と改善。 						企画・立案・実践
									実践成果の検証・改善
6	周辺環境（山林）の有効活用	本学周辺の山林を有効に利用・開発していくことは、特色ある教育を実現し、本学の魅力を発信していく上でも重要である。また世界的なSDGsの広がりの中、自然や環境への関心も高まっている。本学での学びや体験、教育実践、事業等を通じ、持続可能な社会の実現に向け、本学学生・教職員における意識・行動の変容にも努めたい。	<ul style="list-style-type: none"> ①短大周辺の山林の整備推進。 ②自然を活用した教育プログラムの検討・実践。 ③自然体験を通じた周辺地域・諸関係機関との連携事業。 ④実践成果の検証と改善。 						企画・立案・実践
									実践成果の検証・改善

短期大学（子ども学科）

1 教育

項目	中長期目標		中長期プラン						
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ					
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
1	学科DP（学科別学修成果）の見直し	本学では、平成30（2018）年度に、3つのポリシー（AP・CP・DP）の一体化を図るため改定をおこない施行しており、学科DPに基づく教育内容の充実が求められている。同時に、学修成果実態に基づく学科DPおよび教育内容の見直し等、PDCAサイクルへの取り組みを推進する。	①「シラバス内容」「カリキュラムマップ」「授業科目成績（GPA含）」「DPルーブリック」等の指標を用いた、学修成果実態と学科DPとの関連性・整合性の検討。 ②学習（学修）成果実態に応じた学科DPの見直し、教育内容改善、必要に応じた学科DP改定。						学修成果実態と学科DPとの関連検討（効果検証） 学習成果実態・学科DPに基づく教育内容の改善 学科DPの見直しと必要に応じた改定
2	キャリアイメージの明確化	現行の4期（入門期、変身期、充実期、総仕上げ期）それぞれにおいて期待されている成長や学びの内容をわかりやすい表現で修正・提示。学生は各期において提示されたイメージと自己を比較検討することで、保育者としての具体的なキャリアイメージの明確化を図る。	①学科DP、授業内容等に基づく、各期における学生の学びや経験内容の検討（整理と計画）。 ②ルーブリック策定後、各期における学修成果、課題、改善事項等、学生による自己評価の実施。 ③学修成果状況に応じた個別的指導、キャリア支援等の推進。						各期のイメージの検討、策定 ルーブリックの検討、策定 各教員による評価と学生による自己分析を通じた指導及び支援 イメージとルーブリックの改善妥当性の評価等
3	特色ある保育者養成教育の構築	地域に根差し、これからの時代に求められる保育者を養成し、本学科ならではの特色ある教育の構築を目指す。	①カリキュラムの検討と構築（選択科目、幼免・保育士以外の取得資格の見直し等）。 ②学科DPや教育目的に沿った科目・教育内容の検討、構築と実施（自然保育や「おやこひろば」を活用した内容等）。 ③新カリキュラムの実施（令和5年度～）。 ※上記①・②については、学科内検討グループを立ち上げ、検討・準備する。						カリキュラム検討・構築 令和5年度生から適用、実施 見直し・改善

短期大学（子ども学科）

2 研究

項目	中長期目標		中長期プラン						
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ					
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
1	教員の専門性を生かした研究実績の向上	現在、科研費等の外部資金調達による研究は、大学研究力向上の重要な課題であり、本学科としても、積極的に取組の推進を図る。	①科研費等外部資金獲得に向けたセミナーを実施、ノウハウの共有化。 ②学科教員の専門分野（「子育て支援」、「自然保育」、「保育者養成」等）共同研究プロジェクトチームの編成、研究計画の検討。 ③科研費等の応募件数や獲得実績の向上。 ④研究成果発表の推進（学会、研究会、刊行物、大学HP等）。	外部資金獲得セミナー実施					
								外部研究資金獲得に向け、各チームエントリー	
								研究成果公表 (学会・研究会・刊行物、大学HP等)	

3 社会連携・社会貢献

項目	中長期目標		中長期プラン						
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ					
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
1	卒業生との学び合いの機会の促進	卒業生とのつながりを維持・発展させていくことは、次世代の保育者を育て、地域に送り出していくうえで必要で有用なことである。卒業生が集う機会を短大にて提供することで、同級生や上下級生、教員との互恵的な関係構築や学び合いの促進を図る。このような機会は本学にとって、現場保育者への学術的・専門的知識・技術・技能の提供を目的とした講座開設に向けてのニーズ把握にも繋がる。	①大学祭等におけるホームカミングデイ（仮称）の企画、実施、改善、定着化。 ②保育専門講座の企画、実施、改善、定着化。	内容と方法の検討					
								実施と改善	
								定着	

4 その他

項目	中長期目標		中長期プラン						
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ					
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
1	教員の業務見直し・改善	教育、研究、校務、地域貢献が大学教員職務の柱である。各々は本学の使命を認識し、教員としてバランスよく果たしていくこと、労働者として業務遂行できる範囲であることにより成果が得られるものでなければならないが、現況としては拡大する業務に対応するのみであるため、業務の見直し・改善を定期的に行い教員及び労働者として健全な職務遂行を目指す。	①年度末や学科協議会での意見交換、学科長による聴取等による現状把握。 ②業務スリム化や見直し等に関する学科内検討、対応の推進。 ③関係部署、大学への検討事項や要望の提案。						
								業務の見直しと改善	

短期大学（キャリア育成学科・オフィスワークコース）

1 教育

項目	中長期目標		中長期プラン									
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ								
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度				
1	カリキュラム改訂の推進	①地域を活性化し、高校生にとって魅力的な教育内容となるようにカリキュラムの編成を行う。 ②改訂カリキュラムの実施により、オフィスワークコースの教育力の向上に努める。 ③学習成果を点検し、必要に応じて改訂を行う。	①科目の設置及び廃止、新たに導入する検定・資格の検討。 ②改訂カリキュラムの実施。 ③成果の点検・評価及びカリキュラム一部改訂の検討。	カリキュラム検討	改訂カリキュラムの実施				成果の点検・評価	一部改訂検討		
2	各種検定試験合格者の増加	①本学での学びを卒業後実践できるスキルに繋げ、かつオフィスワークコースの魅力を地域に向けて発信するため、支援対象資格を追加する。 ②授業や特別講座を実施し、学生の資格支援を行う。 ③資格取得状況を点検し、支援体制の拡充及び支援対象資格の変更を行う。	①支援対象資格の見直し。 ②授業での支援、特別講座の実施。 ③資格取得状況の点検、支援体制及び支援対象資格の再検討。	支援資格の再検討	資格取得状況の点検・支援体制の改善				授業での支援、特別講座の実施	再検討		
3	就職活動への意識向上	①就職講座への参加率の向上に努める。 ②就職講座の内容について、他の授業科目との区別を意識して見直しを図る。 ③公務員試験対策を念頭に、筆記試験対策のための授業科目を開講する。	①就職講座の単位化の検討。 ②就職講座内容の見直し。 ③筆記試験対策科目の検討。	単位化検討	就職講座内容見直し	新たな就職講座の実施				筆記試験対策検討	公務員試験・筆記試験対策実施	成果の点検評価

短期大学（キャリア育成学科・オフィスワークコース）

2 研究

項目	中長期目標		中長期プラン						
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ					
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
1	コース教員の研究力向上	①教育と研究は高等教育機関の両輪であることを認識し、教育に資する研究活動を実施する。 ②研究活動推進のため教員間の協力体制の整備に努める。	①コース教員の紀要論文等、執筆件数の向上。 ②コース会議等での研究活動に関する情報交換。						

3 社会連携・社会貢献

項目	中長期目標		中長期プラン						
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ					
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
1	授業と連動した地域貢献の推進	①地域を活性化させるための方法論と、地域貢献を実践的に行う科目を設置する。 ②学修成果を可視化できるよう、ルーブリック等の評価基準を策定する。	①新科目の内容や実施体制の検討。 ②地域貢献活動の学修成果ルーブリックの策定および点検・評価等の実施。						

短期大学（キャリア育成学科・介護福祉コース）

1 教育

項目	中長期目標		中長期プラン					
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ				
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	介護福祉士合格率の向上	「介護福祉士」国家試験の完全義務化は先送りになっているものの、資格合格のための教育・指導充実は、養成機関としての責務である。国家試験模擬試験や教育指導により、学生の合格に向けた意識づけを早期に高めていく取り組みを行う。	①国家試験模擬試験の積極的活用。 ②「介護福祉演習Ⅰ・Ⅱ」の充実。 ③合格率等に基づく効果検証や次年度以降の改善・検討。	 				
2	介護実習評価の充実	本コースでは、介護実習に関するルーブリック評価表の導入がなされたが、指導者評価と学生自己評価間のギャップ、特に学生における自己評価の（実態以上の）高さが指摘された。評価指標としての精度を高める上で、学生における評価項目の理解をさらに深めることが重要であり、かつ、評価結果に関して、今後の学生の学びや教育指導への有効活用に努める。	①学生におけるルーブリック評価項目の理解促進のための説明・指導。 ②ルーブリック評価（学生・実習先）の集計・分析。 ③学生における、自己を客観的に捉える視点の醸成による強み・弱みの把握。 ④上記に基づく個別指導の充実。	 				

2 研究

項目	中長期目標		中長期プラン					
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ				
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	コース教員の研究力向上	教育と研究は高等教育機関の両輪であることを認識し、教育に資する研究活動を実施する。また、研究活動推進のため教員間の協力体制を整備する。	①研究課題（グループ研究等）・方法等の検討。 ②コース教員による研究実践・公表。	 				

短期大学（地域連携センター）

1 仏教教育研究センター

項目	中長期目標		中長期プラン									
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ								
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度				
1 地域連携の推進		本センターが、地域の仏教教育および研究の拠点として貢献できるよう、地域連携事業を維持・推進に努める。	①仏教基礎講座の実施 ②仏教専門講座の実施 ③仏教公開講座の実施						仏教基礎講座の実施	仏教専門講座の実施	仏教公開講座の実施	各講座の検証と改善
2 特色ある研究の推進		真宗高田派本山があり、真宗文化ならびに仏教文化を継承する地であるという本学の地域特性を踏まえ、特色ある研究を推進することで地域連携講座にも繋げる。	①真宗文化ならびに仏教文化の研究 ②地域連携講座の実施						真宗文化ならびに仏教文化の研究	研究を活かした地域連携講座の実施	研究内容の検証と改善	
3 寄贈図書の整理		智恵光院・勸学院より寄贈され、本センターに所蔵されている和綴図書の整理とデータベース化を推進する。	①寄贈図書の整理とデータベース化						寄贈図書の整理・データベース化	寄贈図書の整理状況についての検証と改善		

2 育児文化研究センター

項目	中長期目標		中長期プラン					
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ				
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	研究員の研究活動充実のための支援	学内外の研究員が、子育て支援活動の充実及び育児文化に関する研究活動へ取り組む機会や話題の提供に努める。	①「育児文化研究紀要」の検討・改善。 ②定例研究会の検討・改善・推進。 ③グループ研究活動の検討・改善・推進。					
2	津市「ひろば」のネットワーク構築拠点となる開放事業の運営と活動	地域子育て支援事業として、子育て支援ひろばの実施を中心に子育て支援を必要としている家庭への支援に取り組む。また子育て支援ひろば「おやこひろば たかたん」の実施場所、回数、内容及び参加対象者等の見直し、検討も行き、事業改善にも継続的に取り組む。	①「おやこひろば たかたん」の実施内容等の検討。 ②子育て講座、子育て相談の実施。 ③子育て情報の発信。					
3	地域子育て支援団体との連携活動の充実	これまで続けてきた三重県内の地域子育て支援事業への運営委員会や事業に参加・協力する。また事業改善に向け、内容、方法及び主催者ニーズ等についても検討を重ねる。	①連携事業の内容、方法及び主催者ニーズ等の検討。 ②「みえ次世代育成応援ネットワーク事業」運営委員参画・事業参加。 ③「みえこどもの城連携協定」事業協力。					

2 育児文化研究センター

項目	中長期目標		中長期プラン						
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ					
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
4	津市委託事業の展開	津市より委託されている事業への企画や運営を継続して行う。 また事業改善に向け、内容、方法及び主催者ニーズ等についても検討を重ねる。	①委託事業の内容、方法、主催者ニーズ等の検討。 ②津市委託事業「子育てママのホッとひろば事業」企画・運営。	 					
5	学生にける地域子育て事業の理解向上や参加支援	学生が子育て事業の意味と必要性を理解し、自ら地域の活動に参加できる機会を提供していく。その上で「おやこひろば」実践内容を中心とした授業単位化（選択科目）の検討や、子育て支援ひろば応援学内サークル「たんたんクラブ」の活動支援及び活動内容の検討にも取り組む。	①授業単位化検討、実施及び改善。 ②「たんたんクラブ」の活動支援及び活動内容の検討。 ③学生による「おやこひろばたかたん」の企画・運営の推進。						

3 キャリア研究センター

項目	中長期目標		中長期プラン					
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ				
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	地域連携機能の改善・充実及び連携の拡充	<p>①地域のニーズに対応し地域課題の解決に資することができるよう機能及び体制の改善・充実を図る。</p> <p>②取り組む事業の目的、目標、工程などを明確にし、評価や改善を継続的に努める。</p>	<p>①地域連携に関わる研究員拡大、また活動に必要な連携機関の拡充、事務局設置などバックアップ体制の強化。</p> <p>②連携事業の目的、目標及び工程等の明確化と評価・改善。</p>					
2	研究活動の活性化、研究成果の普及	<p>①研究員間の情報交換・意見交換が活発となる環境を整え、研究活動の活性化を図る。</p> <p>②研究成果、研究員の知見を普及するとともに、地域への還元を図る。</p>	<p>①新しい形での研究会を開催し、研究員間の情報・意見交換を行う場を設定、グループ研究等。</p> <p>②センター紀要への投稿促進、セミナー開催等を通じた研究成果・知見の地域還元。</p>					
3	地域を支える人材の育成	<p>①卒業生、進路先事業者等へのリカレント教育を行うことにより、社会情勢や環境の変化に対応できる人材の育成に努める。</p> <p>②地域課題をテーマとしたPBLを行うフィールドを提供するなど、学生の自律的で実践的な学びの支援を行う。</p>	<p>①卒業生・進路先等リカレント教育充実、講座ニーズ調査、受講者案内連絡先の収集。</p> <p>②学生の実践的な学びにつながるテーマ設定（連携先ニーズも踏まえて）、教員の指導スキル向上、経験等の情報交換。</p>					

4 介護福祉研究センター

項目	中長期目標		中長期プラン					
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ				
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	介護福祉研究センター運営	現在当センターでは、卒業生を含む研究員50名を超え、規模も拡大しており、安定的なセンター運営を図る上で、マンパワー確保、業務スリム化の検討や体制整備に向けた検討に継続的に取り組むと同時に、事業充実にに向けた新規研究員の確保に取り組む。	①運営委員の確保と業務のスリム化検討。 ②事務職員配置等、体制整備の検討。 ③新規研究員の確保。					
2	「高田短期大学介護・福祉研究」の充実	本センター研究紀要の内容・投稿数を充実させ、地域に有益な研究知見の提供向上に努める。その上で内容充実にに向けた検討はもとより、投稿数向上のため本学卒業生研究員にも積極的な論文等の投稿への継続した働きかけを行う。	①内容充実にに向けた検討。 ②本学卒業生研究員への論文等投稿への働きかけ。					
3	地域貢献事業の充実	現在、コロナ禍等の事情により中断している「白子公民館高齢者と学生の交流サロン」「介護見学バスツアー」に関し、再開や他地域でのサロン実施等に向けた検討及び準備を模索する。また「介護福祉セミナー」については継続的に開催し、一般・介護福祉関係者に学ぶ機会の提供を行う。そのほか、地元地域関係機関（一身田桜町地区、全国障害者問題研究会三重支部、三重県文化会館）との事業連携等を通じ、関係性をさらに強固なものになるよう努める。	①サロン再開及び拡大（他地域）、バスツアー再開に向けた準備・検討。 ②サロン及びバスツアー再開と学生ボランティアの充実。 ③介護福祉セミナー事業。 ④地元関係機関との連携。					
4	介護啓発事業への協力	2020年度から本学が行っている小中学生向けの「介護作文コンクール」への運営協力を継続的に行い、県内児童生徒への介護の普及、理解向上に貢献する。そのため、作品応募数増加（目標応募数1500、参加校100校）、新聞・テレビ等メディアでの紹介等に積極的に取組みを進める。そのほか表彰式、優秀作品朗読、文集配布等の継続的な実施を行う。	①作品応募数の増加への働きかけ。 ②新聞・テレビ等メディアへの働きかけ。 ③表彰式、優秀作文朗読、文集配布。					

短期大学（総務・教務・学生・入試広報・図書館）

1 総務課

項目	中長期目標		中長期プラン					
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ				
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	物的資源の適切な維持管理の実施	現状、施設設備の維持管理は適切に行われているが、老朽化・陳腐化による改修・修繕については今後とも対策を必要とするため、限られた財的資源の中で、不断の見直しを行い、予算の精査と必要性に応じた改修・修繕に努める。	①物的資源の適切な維持管理（改修・修繕等含む） ②年次計画と予算の検討及び執行					
2	FD・SD活動の活性化	自己点検・評価委員会を中心として、定期的なFD・SD研修会（コンプライアンス及びハラスメント研修等）を計画・立案し、全教職員の資質向上を図る。同時に実施結果の検証等、成果の点検・評価等を通じ改善・充実にも努める。	①定期的なFD・SD活動の企画立案・実施。 ②実施結果の検証、課題の抽出、成果の点検・評価。					
3	令和10年度認証評価に向けた取り組み	自己点検・評価委員会を中心とし「令和3年度認証評価」における指摘事項を整理し、改善を図ると同時に令和10年度認証評価に向けた体制を整備する。	①「令和3年度認証評価」指摘事項の計画的改善。 ②令和10年度認証評価に向けた自己点検・評価活動の活性化及び準備。					

2 教務課

項目	中長期目標		中長期プラン							
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ						
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
1	教務システムのリプレース	基本設計から15年以上経過した教務システムを最新のものに置き換え、教務の基幹業務について精度とユーザーの利便性を向上させる。	①教務システム、キャリア支援システム、学生ポータルサイト、出席管理システム、LMSの段階的見直し。 ②新たなシステム構築による各業務連携の強化。	導入システムの決定	出席管理システム、LMSの検証		教務関連システム移行	検証結果によりシステム移行		
2	授業環境整備	学内でプロジェクターとスクリーンを備えた教室が特別教室を含め7教室に留まるなど、授業設備の不足について複数年かけ解消する。具体的には年度ごとに数を決め、プロジェクター、スクリーン、DVD、ブルーレイ、ポータブルアンプなど授業設備を購入し、汎用的に利用できる教室の拡充に努める。	①計画的な設備購入及び設置。 ②教室環境のチェック（購入計画含む）。	購入設置	購入設置	購入設置	購入設置	環境チェック	環境チェック	環境チェック

3 学生課

項目	中長期目標		中長期プラン						
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ					
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
1	キャンパスライフ充実	明るい挨拶や礼儀・マナーを大切にする中で、学生間や学生と教職員との適切な人間関係の構築を目指す。また、学生の自主的かつ主体的活動ができる環境作りを行うため、学生自治会を中心とした学内行事、及びクラブ・サークル活動の更なる活発化に努める。	①自治会主催行事、サークル活動活性化等に関する検討（課題抽出、行動計画、実施、点検評価等）。 ②その他の年次計画に基づく活動および総括。	自治会主催行事等の点検・課題抽出	行動計画の策定	新しい行動計画に沿った実践、成果の点検評価			年次計画に基づく活動および総括
2	奨学金等の経済的支援充実	在学生に対し、高等教育修学支援制度、日本学生支援機構奨学金制度を始めとする入学後の奨学金制度を積極的に紹介するとともに、就職分野別の多様な奨学金についても情報提供と利用支援を行う。また入試広報課との連携を深め、受験生に対しても、種々の奨学金制度の周知徹底にも努める。	①奨学金情報提供に関する検討と改善。 ②国・自治体における奨学金制度動向に関する調査・研究。	課題抽出、調査・研究	奨学金の見直しと計画	支援策の提起、実施	成果の点検評価	課題抽出、調査・研究	国・自治体の制度の調査、研究
3	学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮充実	学生の心身の健康管理やメンタルケア、カウンセリングの体制を整え、学習や学生生活が充実するような組織的支援に努める。定期健康診断後の保健指導の充実を図り、要配慮・支援学生へのトータルな支援体制構築に向け取り組む。	①トータルな学生支援充実に向けた業務の検討・実施・改善。 ②学生支援に関する研修会等参加による職員の資質や意識の向上。	課題抽出	実施評価	実施評価	実施評価	実施評価	研修会等への参加・啓蒙活動
4	外国人留学生支援の充実	本学ではキャリア育成学科介護福祉コースを中心に留学生が在籍しており、彼らの学びや学生生活の充実に向けて、日本で暮らす上での悩みの共有や解決支援、奨学金・学費減免制度等の情報提供、日本語能力向上や授業・試験等における配慮等に対する取り組みを推進する。	①生活・学習サポート体制の充実に向けた支援内容の検討・実施・改善。 ②国の政策に基づく点検、調査・研究に努め、職員における意識・能力の向上。	支援の課題抽出	支援策の提起、実施			成果の点検・評価	国の政策に基づく点検、調査・研究

4 入試広報課

項目	中長期目標		中長期プラン								
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ							
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			
1	学生募集のあり方の再検討と募集定員の確保	①少子化による受験生の激減に対する戦略の検討。 ②短期大学離れの傾向に伴い魅力と活気のある大学運営とその発信についての取り組みを推進する。	①オープンキャンパスの実施時期、回数、内容等の検討及び改善。 ②SNS等の活用、高校生に直接接点できる機会確保等、効果的ツールや手法の検討及び改善。	アンケートによる改善点発掘	改善内容の振返りによる再改善	成果の点検評価	有効なツールの検討	HPの改定検討	結果の振返りによる見直し	HPの改定検討	
2	高大連携の推進	①高大教育交流連携校との模擬授業等の充実を図る。 ②高校現場で求められる新たな連携事業への取り組みを推進する。	①模擬授業等内容の検討・改善。 ②新規事業実施に向けた現場ニーズのヒアリング実施。	アンケートによる検討	改善内容による実施	アンケートによる検討	改善内容による実施	ヒアリングの実施	ヒアリング結果の検討	新規事業の試行	新規事業の実施と振返り
3	多様な学生の受入強化	①社会人入試の強化へ取り組む。 ②外国人留学生入試の充実を図る。	①委託訓練入試・一般社会人入試の応募者増強策について検討・実施・改善。 ②県内外日本語学校との連携強化、中国・ベトナム等現地入試の実施。	現状認識・問題点等の検討	検討内容の改善による実施	成果の点検評価	対象日本語学校・現地入試計画策定	現地入試の実施	実施の効果検証による改善検討		

5 キャリア支援センター

項目	中長期目標		中長期プラン					
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ				
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	公務員試験合格率向上	県内市町の保育教育職の採用者数が減少傾向にあること、採用試験が早期化していることから、以前よりも合格が困難な傾向になってきており、公務員希望の学生が早期から、かつ最後まであきらめることなく学習に取り組むことができるよう、本学の学生に合った計画的な支援を行う。	早期かつ継続的な公務員講座等の計画・実施・改善。					
2	多様な学生に応じた個別的キャリア支援推進	多様な学生が入学していることから、一人ひとりの特性や適性、進路希望を踏まえた進路実現を目指す。その実現のため、学生相談室、学生支援連絡会といった学内だけでなく、学外の専門機関とも連携しながら、学生一人ひとりに応じた包括的支援に努める。	①ケース会議や学内情報共有の充実・改善、全学的支援体制の確立。 ②学内外専門機関との連携、キャリア支援及び学生支援に関する研修の充実。					
3	新たなキャリア支援システムの構築	新しい教務システム導入を機に、キャリア支援に係る情報蓄積・活用可能な新たなシステムを構築する。例えば、求人情報検索や就職試験報告等での利便性の向上を図っていく。さらにセンタースタッフと教員協働による支援体制の強化を図る。	①新たな情報管理・活用システムの構築、見直し、改善。 ②教職協働による支援体制づくりに関する検討、改善。					

6 図書館

項目	中長期目標		中長期プラン					
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ				
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	学修環境としての図書館改善	全学的及び学科・コースの到達目標実現に必要な環境（資料面と施設面）を整備し、ソフト面でもそれらを利用しやすくする仕組みの整備を図る。	①建学の精神の涵養、専門分野の学修に関する資料の整備（質・量）。 ②学生ニーズに対応した資料、一般教養知識獲得に役立つ資料の整備。 ③安全整備、収蔵環境改善。 ④利用促進につながるサービス提供方法の見直し。 ⑤著作権リテラシーの啓発。	改善点や改善方法の検討		改善の実践		点検・継続
2	学生における読書推進と図書館活動参加促進	学生の読書推進に努めると共に、収蔵図書選定や図書館だより記事執筆等の図書館活動において、図書館メイトだけでなく、全ての学生が得意な分野で活躍できるような機会を増やす。	①読書推進企画・啓発。 ②学生による自主的な活動機会の拡充。	方法を検討		実践		点検・継続
3	地域・社会連携の拡充	地域、社会一般に役立つ事業の一環として、公開講座実施継続や機関リポジトリの準備に取り組む。加えて、報道メディアやWEB媒体等を活用した各事業の広報推進を強化する。	①公開講座実施継続、機関リポジトリ準備。 ②メディア報道依頼継続、WEB広報の推進。	事業の抽出		公開講座実施継続 機関リポジトリ等の準備・ 広報展開		点検・継続